

密封小線源放射線治療について

兵庫県立がんセンターでは、5月19日（火）から、密封小線源放射線治療を再開します。再開にあたり、新たにCT組合せ型の小線源放射線治療システムを用いた治療を実施いたします。

CT組合せ型のシステムのため、画像誘導小線源治療が可能で、CT画像を用いて腫瘍周囲の正常臓器を正確に描出することにより、周囲臓器への線量を抑えつつ腫瘍に高線量を投与する（治療効果を高め、副作用を減らす）ことが可能となります。また、CT室への移動が不要となり、治療時間の短縮や安全性の向上などで患者さんに優しい治療が可能となります。

1 密封小線源放射線治療について

- 密封小線源放射線治療は、体の中から放射線を照射（腔内照射、組織内照射）する治療のことです。主に、子宮・前立腺・頭頸部・乳房・気管支・胆道・食道などの腫瘍に対して行われます。腫瘍部位に集中的に照射することができる一方、周囲の正常組織への線量を抑えることができるため、副作用が少ない治療法です（適応疾患の代表的なものとして、子宮頸癌が挙げられます）。
- また、この治療は、健康保険が適用されています。

2 今回当センターで実施する密封小線源放射線治療について

- 当センターでは、子宮頸癌などの婦人科腫瘍に対し本治療を行います（全身麻酔下で行うこともあります）。
- 子宮頸癌の場合、子宮内の腫瘍の近くに専用の管（アプリーケータ）を留置します。アプリーケータ留置状態でCTを撮像し、そのCT画像をもとにコンピュータを用いて最適な治療計画を行います。その後、直径1mm、長さ5mm程度の線源をコンピュータ制御の遠隔操作でアプリーケータの管の中へ送り込み、計画に従った照射を行います。治療時間は、準備を含めて約3時間で、実際の照射時間は数分から十数分です（これまではCT撮影を別室で行っていましたが、これからは患者さんの移動が不要となります）。
- 子宮頸癌の放射線治療は、原則として外部照射（リニアック）と密封小線源治療による腔内照射を組み合わせることで根治を目指します。

3 参考

- 新たに導入したCT組合せ型の密封小線源放射線治療システム（写真）

